第６９号　進路新聞

はばたき

令和５年９月８日
福井東特別支援学校

●春の現場実習●（病肢高等部　6／20～6／30）

《１年生》　校内実習を３日間行いました。今回の目的は「はたらくために必要な力を知る」こと。実際の作業場で行われる製品チェック／不良品の仕分けやバリ取りなどの作業に取り組みました。今回の経験を次につなげていきましょう。

《２年生》　自分の適性と将来の進路を考える実習になりました。働くことのイメージをつかみ、自分が決めた目標を達成できるように努力しました。自分の課題は何かを振り返り、今後の学校生活で取り組んでいきましょう。

《３年生》進路先決定に向けて、自分に合う環境や仕事内容を確かめるために複数の事業所で実習したり、夏休み中も見学、実習を実施したりする人がいました。４月からの生活をイメージし、春の実習の経験を活かして秋の現場実習に取り組みましょう。

実習先
見学先

《一般企業》　ハーツ志比口、ふじしま認定こども園、フレンドマート開発店、キュウカフェ
坂井市役所、三国図書館、UACJ、休暇村越前三国、ホクチク、福井県立図書館

《福祉事業所》　**（就労移行）**ウォレスジョブトレ　**（就労移行支援Ｂ型）**スマイル農園、足羽サポートセンター、前進主義ふくい（芝原、AOSSA）、タクティクス福井西、永平寺あぐりの家、ジョブトライ厚生、ネクステクノ、愛全園、夢つづきの家、プラス、ネクストステップ、ワークハウスらしく、千草の家

●事業所体験実習●（高等部Ａコース　６／１２・１３・２７）

卒業後の移行がスムーズに図られるよう、卒業後の生活を見据えて福祉事業所での生活に慣れたり、事業所の職員の方に生徒のことを知っていただいたりする機会として、高等部２・３年の生徒２名が事業所体験実習に参加しました。今回体験した実習先は「わかたけ」と「げんきの家」で、保護者の方も同行しました。

【事業所スタッフへのアンケートから】

卒業後の事業所利用に向けて、事業所では学校のようにマンツーマンでの対応は難しいため、学校生活でも生徒がそのような環境に慣れていくための働きかけが大切だと感じています。

【保護者へのアンケートから】

入浴や送迎のサービスがあるので、卒業後に利用したいと考えていますが、今回の実習で、一日の過ごし方、他の利用者の年齢層や人数、昼食の様子なども分かってよかったです。

実際とは異なりますが、体験した機械浴のイメージです。

●卒業生を囲んで●　　（病肢高等部　７／７）

大雨の影響で１ヶ月延期しての開催となりましたが、卒業生４名(令和３年度卒１名、２年度卒１名、元年度卒２名)と事業所職員の方２名、計６名の方が来てくださいました。病肢高等部生徒、教員、保護者の方々が参加し、全体会と分科会を行いました。仕事の内容や勤務時間、仕事中のコミュニケーション、進路先を決めた時期や決め手などを教えていただきました。職員の方からは各事業所の紹介や卒業生の様子についてお聞きしました。「在学中に身につけておくとよいことは？」という質問に対し、「パソコンのスキル」と答えた方が多く、接客、製造、農業など、どんな職種であっても、Excel や Word などでの入力やデータ管理の仕事があるとの回答でした。「一人で抱え込まず相談できる人を作るとよい」、「在学中の現場実習でやりたい職種や会社にチャレンジしてみて、自分で納得して進路を決めるとよい」、など在校生の心に響くアドバイスを聞くことができました。卒業後の生活について考える貴重な機会となりました。

●事業所さんといっしょ●　（病肢部　７／２０・８／４）

今年度からの新しい取組として実施することになった「事業所さんといっしょ」とは、保護者の皆様が早い段階から進路について考える機会を持てるように、事業所への見学（事業所さんへいってきま～す）と、事業所説明会（事業所さんいらっしゃ～い）を定期的に行う取組です。お子様の進路を考えるきっかけの場にしていただけたら幸いです。７月 20 日には第１回目として、就労移行支援事業所ＦＬＡＰの方を招いての事業所説明会を行いました。ＦＬＡＰでは、事業所内で模擬会社を作り、その仕事を個々に行うことで、実際に働いた時の力や自信をつける取組をしているそうです。保護者の方 4 名が熱心に耳を傾けてくださいました。また、８月４日の、地域福祉活動支援事業所ネクステクノスタイルへの見学会では、実際にｅ-ＳＰＯＲＴを体験したり、かき氷をいただいたりと、アットホームな雰囲気を感じることができました。

●教職員事業所見学会●（病肢部･A コース ７／24）

病肢部グループは、「ほのぼのハーツ」（就労継続支援 A 型）、「ジョブトライ・厚生」（就労継続支援 B 型）の事業所を見学しました。「ほのぼのハーツ」（A 型）では、宅配に関する多くの作業種（カタログをセット、農産物の袋詰め、商品の仕分けなど）があり、求められていることとしては、休まないことや正確性や体力などが挙げられました。「ジョブトライ・厚生」（B 型）では、タオル類の洗濯を広いスペースで行っており、静養室や個室などが整い、厚生病院の無料巡回バスの利用も可能で、事業所の利用時間は個々に合わせて決めていくということでした。

重複部グループは、「指定障害者支援施設　あいの里」（生活介護）、「社会福祉法人　竹伸会　しみずの杜」（生活介護）の事業所を見学しました。「あいの里」では、利用者の増加やニーズの多様化に対応するため、近隣に「ゆめの里」を併設することで利用者の生活をより快適なものにするための取組が行われていました。「しみずの杜」は、一昨年新設移転された施設で、きれいで明るい雰囲気の中、利用者一人一人が生き生きと日々の活動に取り組んでいる様子を見学することができました。残念ながら現段階では、両施設共に医療的ケアを必要とする方への対応はできないそうです。卒業生が利用できる社会資源が、各地に拡がることを望みます。

●進路ケース会議・相談会●　（Ａコース　7/２7、８/4、８/7、８/２８）

今年度も夏季休業中に中学部・高等部Ａコース生徒の進路相談会を開催しました。相談会には、生徒５名の保護者をはじめ、相談支援専門員の方や地区の障がい相談事業所の方、現在利用している放課後等デイサービス事業所の方をお呼びしました。保護者の思いを尊重しながら、卒業後の生活をイメージした話題を中心に、緊急時に利用できるショートステイ先の検討、卒業後に利用していきたい事業所の利用日時や送迎サービス、入浴サービスの有無など、具体的な話合いが行われました。また、話合いを踏まえて後期の体験実習先の検討も行いました。活発な意見交換を行うことができ、卒業後の生活に向けて少しでも手がかりとなる情報が得られたのではないかと思います。これからも関係機関との連携や情報共有を積極的に行い、より良い支援につながるよう取り組んでいきたいと思います。

●進路研修会●　（病肢高等部　８／２５）

タクティクス福井　理事　森岡恵枝氏　をお招きし､「事業所で働くうえで必要な力について」をテーマに保護者、教職員共に学習しました。これまでの利用者の方との関わりや支援の話を交えながら、必要な力（身につけてほしい力）として、以下のことを挙げていました。①挨拶、②自己発信、③話すことに慣れる、④信頼できる職員との関係作り、⑤自己分析などです。自己発信力や自己分析力が身につくことで、本人のストレスの軽減につながったり、自分の状況を職員に伝え、「どうするとよいのか」考えて作業状況の改善につながったりするようです。タクティクスでは、本人の状態、特性に合わせて、ステップアップを目的として支援されています。また、仕事をする上で本人のモチベーションは大事で、利用事業所の最終決定は本人であること、夢や希望を持って通所してほしいといったことも話されていました。在宅ワークの紹介もあり、とても有意義な研修会となりました。